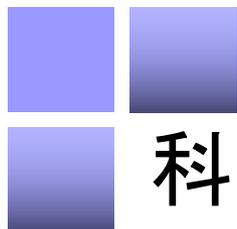


平成27年度レファレンスサービス研修



科学技術分野専門資料各論 専門資料群解説

国立国会図書館 関西館
文献提供課 布引哲雄
平成27年11月20日(金)

この講義の内容

1. 専門資料群とは何か
2. 専門資料群の概要
3. まとめ

1. 専門資料群とは何か

科学技術分野の専門資料群

- 規格資料
- 学会会議資料
(会議録・学協会ペーパー)
- テクニカルリポート
- 博士論文(国内・海外)
- 文部科学省科学研究費補助金による
研究成果報告書(科研費報告書)

一般的な図書・雑誌との違い

3つの特徴

- 発生経緯が特殊
- 書誌事項が不統一
- 流通ルートが限定



見つけにくい&入手しにくい資料群

専門資料群とは…

専門書？

学術雑誌？

専門資料群は怖くない！

- 適切な調査ツールを用いれば十分に調査が可能
- 当該分野の専門知識は必須ではない



図書館員の腕の見せ所

2. 専門資料群の概要

科学技術分野の専門資料群

- 規格資料
- 学術会議資料(会議録・学協会ペーパー)
- テクニカルリポート
- 博士論文(海外)
- 博士論文(国内)
- 文部科学省科学研究費補助金による研究成果報告書(科研費報告書)

規格資料

- 産業・技術・科学等の分野において制定された「基準」
- 書誌事項が特殊
- Web上で販売されているものが多いので、購入は比較的容易
- 規格集・ハンドブックの形態で、一般の書店で流通しているものもある

書誌事項の読み解き方を
理解すれば怖くない

学術会議資料(会議録・学協会ペーパー)

- 学術会議の開催に伴って刊行される資料
- 書誌事項の表記揺れが大きい
- 出版媒体が一定ではない
- 会議体と会議録が1対1対応するとは限らない

総合的な調査が求められる
難しい資料群

テクニカルリポート

- アメリカ政府機関の契約研究の成果報告書
- 所蔵確認に有効な書誌事項を特定するのが難しい
- 従来は、流通することが少ない「灰色文献」だったが、現在はWeb上で公開又は販売されていることが多い
 - ただし古いものは入手が困難なことが多い

書誌事項の特定方法の習得が鍵

博士論文(海外)

- 博士の学位(博士号)を得るための論文
- 所蔵確認に有効な書誌事項を特定するのが難しい
- 販売されていることが多い
 - 欧州: 製本された単行本形態が主
 - 米国: ProQuest社(旧UMI社)がマイクロ形態又は電子媒体で複製頒布
- 電子化も進んでいる

書誌事項の特定方法の習得が鍵
所蔵館なしでも、購入による入手を案内できることが多い

博士論文(国内)

- 博士の学位(博士号)を得るための論文
- 一般の書店で流通することはきわめて稀
- 国立国会図書館では関東大震災(大正12年9月)以降の博士論文を網羅的に収集している
- 学位授与大学等で所蔵している場合もある

所蔵確認は
一般の図書・雑誌と同レベル

国内博士論文の収集・利用について

- 学位規則の改正により、博士論文は原則としてインターネット上に公表
- 国立国会図書館への送付方法の変更
- 閲覧・複写は従来通り、インターネット公開も許諾があれば実施
- 電子版博士論文はNDL-OPACでは検索できない

科研費報告書

(文部科学省科学研究費補助金による研究成果報告書)

- 一般の書店では流通しない
- 書誌事項がわかっているならば、一般的な図書・雑誌と同様に所蔵確認できる
- 終了年度が2008年度以降のほとんどの研究種別は簡易な報告書がKAKENで公開されるのみ

所蔵確認は
一般の図書・雑誌と同レベル

やや難しいもの

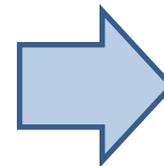
- 規格資料
- 学協会ペーパー・会議録
- テクニカルリポート
- 博士論文(海外)



本日の
講義科目

比較的容易なもの

- 博士論文(国内)
- 科研費報告書



本日の配布資料
や遠隔研修、
リサーチ・ナビを
ご活用ください。

3. まとめ

まとめ

■ 専門資料群とは

- 規格資料、学会会議資料、テクニカルリポート、博士論文、科研費報告書の5つ

■ 特徴

- 発生経緯・書誌事項・流通ルートの特異性から、見つけにくく、入手しにくい
- 内容の専門性の高さによる分類ではない
- 適切な調査方法を知ることが大事